

■著者紹介

三柴 丈典 (みしば・たけのり)

Takenori Mishiba

東大阪市新上小阪 228-3 近畿大学法学部

Faculty of Law, Kindai University

228-3, Shin-kamikosaka, Higashi-Osaka, Osaka

takenori.mishiba@gmail.com

略歴

1971年愛知県東海市生まれ。1999年、一橋大学大学院法学研究科博士後期課程修了、博士（法学）。同年に近畿大学法学部講師、2002年に同助教授、2007年に同准教授、2012年に同教授となり、現在に至る。専門は、労働法及び産業保健法。2011年4月より厚生労働省労働政策審議会安全衛生分科会公益代表委員。これまでに厚生労働省の検討会の委員等を歴任し、2014年7月には衆議院厚生労働委員会で、労働安全衛生法の改正について、参考人を務めた。2012年に一般社団法人産業保健法学研究会を設立、2020年に産業保健法学会の設立を予定している。単著として、『労働安全衛生法論序説』（信山社、2000年）、『裁判所は産業ストレスをどう考えたか』（労働調査会、2011年）、『労働者のメンタルヘルス情報と法』（法律文化社、2018年）などがある。2020年8月には、本書の原著である Workplace Mental Health Law : Comparative Perspectives. Routledge を上梓した。その他、主に安全衛生や労災補償・賠償に関する共著書、論文等を多数公表している。